

a 学校教育目標	夢大きく心豊かな児童の育成 ～知・徳・体 キラリと光る三つ巴っ子～	b 経営理念 ミッション・ビジョン	【ミッション】(自校の使命) 自分を愛し、夢を語る児童の育成 【ビジョン】(自校の将来像) 地域を愛し、確かな学力と豊かな心を持ち心身共に健康な子どもを育成し、地域・保護者から信頼される学校
----------	--------------------------------------	----------------------	--

評価計画						自己評価					改善方策	学校関係者評価			
	c 中期経営目標	d 短期経営目標	e 目標達成のための方策	f 評価項目・指標	g 目標値	10月	2月	i 達成度	j 評価	k 結果と課題の分析	n 改善方策	l 評価			m コメント
						h 達成値	h 達成値					イ	ロ	ハ	
確かな学力	すすんで学び、よく考え豊かに表現する児童を育成する。	◎基礎・基本の学力向上 ★学力テスト等目標値達成率の向上(国語科・算数科)	○学習の重点と系統性を意識した各学年の指導 ○単元末テスト、学力調査の結果を分析・活用 ○児童と設定する課題づくりとR80Iによる振り返りの充実	○学期末テスト80点以上の児童の割合(%) ○CDT学力テストの結果 ○R80(接続詞を使って2文)で振り返りを行うことができたという児童の割合(%)	80% 全国平均以上を100%85%	75.85% 未実施88.9%	73.75% 45.23%89.35%	80%	B	○漢字の読み書きや四則演算などの基礎学力の定着に個人差があった。 ○CDT検査では、国語科では読むこと、算数科では図形領域の課題が大きい。 ○R80Iによる振り返りを行うことの定着は図ることができた。	○既習事項の確認や学習内容の復習を行うことで、児童が見通しをもって課題解決をするよう授業改善をする。 ○基礎学力の定着のためドリルパークの活用をする。	○			・どの学級も落ち着いた雰囲気の中、集中して学習している。それぞれの学年でつきたい力を明確にし、基礎学力の定着を図ってほしい。 ・「わかった」「できた」という達成感を味わわせ、次の意欲につなげてほしい。 ・家庭でのドリルパークの活用については、個人差があると思う。毎日持ち帰っているのだから、もっと活用できたらいいと思う。 ・「読む力」を身に着けるためにも、音読や読書指導は大切である。
		○生活科・総合的な学習の時間における探究的な学びを通した思考力・表現力の育成	○生活科・総合的な学習の時間における探究的な単元構想 ○一人一回以上の授業研究と、全員参加の協議による授業改善	○学ぶことで自分が成長していると感じている児童の割合(%) ○課題解決に向けて児童が主体的に考えるよう単元構成や振り返りを工夫したと回答する指導者の割合	80% 85%	93.1% 94.4%	95.85% 100%	118%	A	○児童の振り返りの中に、学びを積み重ねる中での自分の成長や、友だちと学び合い様々な考え方に触れることによる理解の深まりを、児童自身が感じることができていると見取れるような内容のものが見られた。 ○生活科・総合的な学習の時間だけでなく、他教科でも児童を学びの中心に置いた授業構成を行うことができた。	○児童の「やりたい」という思いを学びの中心に置いた課題設定や単元構成のさらなる充実を図る。	○			・学力テストの結果の分析をもとに、定着度の低かった児童や問題(設問)については重点的に指導してほしい。 ・読解力に課題があるのか、読むこと自体に課題があるのか。一読解力に課題があるため、学力向上に向けての取組を続けていく。(ドリルタイムや家庭学習等) ・学力差の実態はどういったものか。把握はできているか。一学年ごとに差に違いがある。テスト結果の分析をし、職員間で共有することで、学校全体で学力向上に向けて取組を進めていく。
豊かな心	地域を愛する心を持つとともに、自他を尊重し、安心・安全な集団を育てる。	◎コミュニティ・スクールの良さを生かし、地域(人・もの)と関わり、地域を愛する児童の育成	○地域ゲストティーチャーや読書ボランティアなどを積極的に活用 ○各教科、道徳の時間、総合的な学習の時間等で地域学習の導入	○感謝の気持ちを表現することができている児童の割合	95%	96.30%	97.75%	102%	A	○コミュニティ・スクールとして社会福祉協議会、安全安心本郷協議会など、地域の方々と関わる機会を多くもつことができた。 ○総合的な学習の時間に地域活動について学び、地域の人と関りを深めたことで、児童たちは地域とのつながりを再認識し、地域の人々への感謝の気持ちが自然に生まれた。	○児童たちが学んだことや地域への感謝の気持ちを発表する場を増やすことで、児童たちの自信を高めるとともに、地域の方々とさらに深い交流を深める。 ○地域についての学びを3年生から系統的に継続的に行うことで、児童が地域への理解を深める機会を増やす。	○			・運動会や持久走大会・学習発表会等で児童は生き生きと活動している。日々の取組の成果だと思う。 ・とんど祭りの実施等、地域や保護者とともに活動することで地域への理解や感謝の心が育ってきている。 ・「学校が楽しい」と答えなかった児童については、引き続き、その原因や背景を探りながら寄り添ってほしい。
		○児童の主体的な児童会活動の創造	○児童の発想を生かした、児童会活動・学級会活動の充実	○学校が楽しいと回答する児童の割合	95%	90.20%	90.95%	95%	B	○低学年:89.9% 高学年:92% 上半期に比べ、低学年は-1.1%減、高学年は2.8%増であった。 ○「友達と遊ぶのが楽しい」「先生との話がおもしろい」「いろんな学年と遊べる」など、学校での人間関係が楽しいと感じる要因が多い。一方で、勉強が苦手」「行きたいときがある」など、学業の不安や対人関係の問題、学校生活に対する不安感から否定的回答をした児童もいる。	○個々の児童の様子を丁寧に見取り、組織的に生徒指導に取り組む。 ○児童会を中心とした、児童発信で楽しく活動できる機会を増やし、主体的に学校生活を楽しむ環境を整える。 ○異学年交流を活用し、学年を超えて友達関係を広げる。	○			・低学年の数値が低下したのは、今年に限ったことなのか。高学年に向けて、上がっていくとよい。 ・一毎年増減があり、今年に限ったことではない。 ・2月の感謝の会について、感謝を伝えてもらい、「ありがとう。」と言ってもらえるのはうれしい。今後も学校、地域全体で感謝の気持ちが広まってくれるとうれしい。
健やかな体	体力を高め、自他の健康を大切にしようとする意識を育てる。	◎基礎体力の向上	○体育科授業における鉄棒、なわとびの継続的取組	○鉄棒:逆上がりができる児童の割合(%) ○なわとび 低学年:前回り跳びが50回以上できる児童の割合(%) 高学年:二重跳びが1回以上できる児童の割合(%) ○体を動かすことが好きと答える児童の割合(%)	70% 85%	未実施90.3%	64.2% 88%	91% 103%	B A	○鉄棒の逆上がりは51.2%、縄跳びは低学年54.5%、高学年86.9%の児童ができるようになった。昨年度から、体育の授業で継続して取り組んだことが成果を上げている。 ○1週間に2回は外で遊ぶ「外遊びday」や体育集会でレクリエーションを取り入れるなど、体を動かす楽しさを感じられる体験を工夫した。	○児童が意欲的に取り組むことができるようにするために、委員会の児童のアイデアを生かしながら集中取組期間を設定する。 ○雨の日や熱中症対策で外で遊ぶことができない日でも体を動かすことができるようにするために、簡単なストレッチや体力テストの数値が低い種目に特化した運動などを取り入れた本郷小オリジナル体操を作成する。	○			・鉄棒や縄跳びについては、学年や個人の目標を設定し、体育科の授業だけでなく、家庭の協力をあおぎながら年間を通して取り組めるものにした。集中取組期間を設けるのはいいアイデアだと思う。 ・体を動かしている高学年がいて、低学年も一緒に活動したくなると思う。異学年での交流がよい取組である。 ・今後も楽しみながら体が動かすことが好きな児童を育て、体力の向上につなげていってほしい。
		○清掃活動の質の向上 ★無言、時間いっぱい、隅々まで	○掃除の仕方の指導の徹底 ○短期集中取組期間の設定	○短期集中取組期間に教師の見取りによる「無言」「時間いっぱい」「隅々まで」ができる児童の割合	80%	77.8%	75.0%	93%	B	○自分が見つつけてきれいにした場所や頑張ったところなどを掃除後に交流したことで、さらに主体的に掃除をする姿が見られた。しかし、教師の掃除指導に対する共通認識が十分ではなかったため、指導に差がみられた。	○掃除の仕方についての研修(雑巾や箒の指導)を行うことで、教師の掃除指導に対する意識統一を図る。	○			・縦割り班で、高学年から低学年へ掃除の仕方について教えあっていることがよい。保護者が一緒に活動した”お掃除体験会”を今後も継続させてほしい。
信頼される学校	地域や家庭の願いに応えるとともに、15年間を見据えた教育を行う。	◎信頼される学校・教職員	○学校運営協議会を活用した、地域・児童の実態・願いの把握・共有 ○時期に応じた参加型の服務研修の実施	○保護者アンケート「本校は安心して子供を通わせることができる。」に肯定的に回答する保護者の割合	90%	98%	99.0%	110%	A	○中間報告に引き続き、99%と高い値となった。学校運営協議会を通して、地域の諸団体の協力を得て教育活動を推進することができた。 ○後期でも定例や臨時の服務研修を行い、不祥事や問題行動に対する高い課題意識を持つことができている。	○アンケートには表れない保護者や地域に意見を広く聞き取り、丁寧な対応を推進していく。 ○年間を見通して業務内容や時期に応じた研修内容となるよう、内容や順序を改善した計画を次年度に引き継ぐ。	○			・保護者アンケートの結果から(99%)、学校の取組肯定的に評価されていてすばらしい。 ・コミュニティ・スクール2年目として校区内の小学校や中学校と連携しながら取組を進めていくとよい。
		○働き方改革	○部を中心とした計画的・組織的な業務運営 ○目安として示す入校時刻・退校時刻の厳守	○時間外勤務月45h以下を6か月以上実施	100%	83%	100.0%	100%	A	○部や学年で計画的・組織的な業務管理・運営に取り組むことができた。 ○目安とした入校時刻・退校時刻をお互いに呼びかけあいながら業務に取り組むことで個の業務量の超過を防ぐことができた。	○部による業務量の偏りなどを改善し、個人や部に負担が偏らない業務管理を徹底していく。 ○管理職だけでなく、職員同士で呼びかけあう雰囲気を醸成し、職員の業務管理・健康管理を推進していく。	○			・教育活動の基盤となる教員の業務・健康に関わる項目が数年A評価が続いているのが大変良い。 ・チーム本郷として学校・地域・PTAが一体となって児童の教育に尽力できていると実感している。

本年度の重点目標については◎印で示す。

【j: 自己評価 評価】
A: 100≦(目標達成) B: 80≦(ほぼ達成)<100
C: 60≦(もう少し)<80 D: (できていない)<60

【l: 学校関係者評価 評価】
イ: 自己評価は適正である。 ロ: わからない。
ハ: 自己評価は適正でない。